

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用パターンと動機に承認欲求が与える影響

"The Influence of the Need for Social Approval on Usage Patterns and Motivations for Social Networking Services"

大井 京[†], 西 匠
Misato Oi, Takumi Nishi

[†]近畿大学
Kindai University
oimisato@gmail.com

概要

本研究は、デジタルデトックスアプリの開発を最終的な目標として、SNS 利用における承認欲求とインターネット依存の関係性を検証した。成人男女 100 名が、承認欲求尺度、インターネット依存尺度、SNS 利用とその動機に関する質問に回答する調査に参加した。その結果、承認欲求が高いほどインターネット依存傾向も高い中程度の有意な正の相関が確認された。承認欲求の高低と SNS 閲覧・投稿頻度の有意な関連性は確認されなかった。

キーワード：承認欲求，インターネット依存，SNS (Social Networking Service)

1. はじめに

近年、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の急速な普及により、誰もが簡単に情報を発信し、他者とつながることが可能になった。総務省（2018）によると、SNS の利用率は全世代で 70%以上、特に 20 代では 97%以上が何らかの SNS を利用しており、社会的インフラとしての存在感を高めている。

しかし、その普及に伴い、SNS 利用に起因するさまざまな心理的問題も指摘されている。たとえば、長村・月元（2022）は、SNS における「いいね」数の比較によってネガティブな感情が生じることを報告しており、他者との比較や自己評価の低下がメンタルヘル스에 悪影響を与える可能性が示されている。また、加納（2019）は、承認欲求が高い人ほど Twitter や Instagram などを用いる傾向があり、結果的にスマートフォン依存や SNS 依存の傾向を強めることを示した。

このような背景から、本研究では SNS への依存への取り組みとして「デジタルデトックスアプリ」の開発を最終目標としている。とりわけ、SNS 利用の根底にある「承認欲求」との関係を定量的に把握することで、より効果的な対策設計が可能になると考えられる。

そこで本研究では、SNS 利用の実態と動機、そしてインターネット依存との関係に着目し、承認欲求とそれらの要因の関連性を明らかにするための調査を行っ

た。承認欲求が SNS 行動（閲覧・投稿・いいね頻度など）、動機に影響を与えているのか、また、インターネット依存とどのような関連があるのかを検証することが本研究の目的である。

2. 方法

実験参加者および実施時期

本調査は 2024 年 12 月にオンライン上で実施した。有償（報酬：約 100 円）での回答に同意した成人男女計 100 名（男性 53 名，女性 47 名）を対象とした。

質問紙構成

調査は Google フォームを用いて行い以下の 4 つの質問項目を含んだ。

承認欲求尺度

.

インターネット依存テスト

インターネット依存傾向を測定するために Young（1998）によって開発された Internet Addiction Test (IAT) を独立行政法人国立病院機構久里浜医療センターネット依存治療部門が邦訳したものを用いた。使用にあたって独立行政法人国立病院機構久里浜医療センターに許可を得た。

SNS 利用に関する項目

回答者の SNS 利用実態を測定するため、以下について質問を行った。

- ・ SNS の閲覧頻度，投稿頻度，いいねの頻度
- ・ フォロワー数，フォロー数
- ・ アカウントの公開設定（公開，非公開，一部公開）

SNS 利用動機に関する項目

SNS 利用の動機に関して、5 項目の質問を 5 件法で評価した。

3. 結果と考察

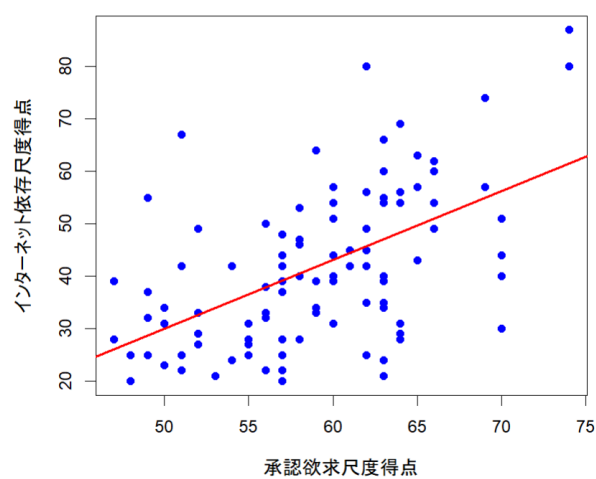
本稿では結果の一部を報告する

3-1. 承認欲求とインターネット依存の関係

承認欲求とインターネット依存の相関分析

承認欲求得点を植田・吉森（1990）を踏襲し，承認欲求尺度から求め，インターネット依存得点をインターネット依存尺度から求めた．承認欲求とインターネット依存の間に関連性があるのかを検証するために，承認欲求得点とインターネット依存得点間のピアソンの積率相関係数を求めた．その結果，中程度の有意な正の相関（ $r=0.537$ ， $p<.001$ ）が認められた（図1参照）．

図1 承認欲求とインターネット依存との相関



このことは，承認欲求が高い人ほどインターネット依存傾向も高いことを示す．これは，SNS 上での「いいね」やコメントなどの外的承認を求める心理が，インターネットへの過度な接触を促す可能性を示唆している．

表1 承認欲求上位群・下位群による「SNS にどの程度，投稿しますか」という問いの頻度の分布

	投稿頻度				
	1 日に何回も	週に数回	月に数回	年に数回	閲覧し ない
承認欲求					
上位群	7	20	11	11	4
下位群	4	9	15	12	7

承認欲求尺度得点の中央値（59）により上位群 47 名と下位群 53 名に分類した．その後，両群で SNS 利用及びその動機で異なるかを検証するために，これらの質

問項目のそれぞれに対してカイ自乗検定を実施した．しかし，いずれの項目においても有意な偏りは確認されなかった．

これらの結果は，承認欲求が高いとインターネット依存の傾向が高く，インターネットの過度の閲覧をするが，SNS での「いいね」や「投稿数」などの行動では承認欲求による違いは確認されないことを示す．

今後の展望として，デジタルデトックスが必要な場面や状況を明らかにするために，利用時間に加え，閲覧している SNS コンテンツ，閲覧時の感情状態を調査する．この調査結果を利用することで，デジタルデトックスの最適なタイミングを検出し，効果的な介入を実現するシステムの構築可能性が高まると期待される．

文献

[1] 長村 圭吾・月元 敬(2022). Instagram の「いいね」は本当に「良い」のか？—SNS 利用における社会的比較志向性の影響—. 日本心理学会第 86 回大会発表論文集, 1EV-017-PC.https://www.jstage.jst.go.jp/article/pacjpa/86/0/86_1EV-017-PC/_article/-char/ja/

[2] 加納 寛子 (2019)．承認欲求とソーシャルメディア使用傾向の関連性．情報教育，1，18 - 23. https://www.jstage.jst.go.jp/article/rrie/1/0/1_18/_article/-char/ja/

[3] 総務省 (2018)．平成 29 年度情報通信白書.

[4] 植田 智・吉森 護(1990). 日本版 MLAM 承認欲求尺度作成の試み. 広島大学教育学部紀要. 第一部, 39, 151–156.

[5] Young, K. S. (1998) . Caught in The Net: How to Recognize the Sign of Internet Addiction - and a Winning Strategy for Recovery. Wiley.